

地球

第七卷 第三號

昭和二年三月一日發行

主要目次

東亞弧狀構造線の新解釋……………	理學博士 小川 琢治
黑鐵々床の海底成因に就て……………	理學士 大橋 良一
氣候と人類……………	三村 信男
マルチニク火山の破裂に就いてのラクロア教授講演……………	理學博士 松 基範
地球の大形態成因に關する楔狀說に就て……………	理學士 帷 二郎
肥前大串の砂金……………	理學士 筑 越郎
佛蘭西に於ける地學研究室瞥見(二)文學士……………	寺 田 貞次
摘 録……………	
新著紹介……………	
雜 報……………	
質疑應答……………	

京 都 帝 國 大 學 內
地 球 學 團

地球第七卷第四號（昭和二年四月）豫告

圖版 第三版 根尾谷の斷層

圖版 第四版 京都、大阪、奈良、神戸、附近地

質圖

大陸及大洋地域の弧狀輪廓の意義……………

…………… 理學博士 小川 琢 治

飛島の地質概要…………… 理學士 安 齊 徹

飛島隆起陸塊と其平面形 理學士 大 橋 良 一

關東平野に於ける重力偏差の分布に就て(上)……………

…………… 理學士 熊 谷 直 一

根尾斷層に就て…………… 理學士 中村新太郎

中央近畿地方の地質概要

亞米利加博物館遠征隊のゴビ砂漠に於ける探檢の

方法と結果(オスボーン)

ジョーリー氏の地殻運動說……………

…………… 理學士 本間不二男

大正十五年五月二十四日の十勝岳爆發記事

講 話

石油地質學概要(九)…………… 理學士 大 村 一 藏

摘 錄

新著紹介

雜 報

質疑應答

地球第七卷第三號

(昭和二年三月)

目次

東亞弧狀構造線の新解釋……………	理學博士	小川 琢治	一七七
黑鑛々床の海底成因に就て……………	……………	大橋 良一	一九五
氣候と人類……………	……………	三村 信男	二〇三
マルチニク火山の破裂に就いてのラクロア教授講演……………	理學博士	松山 基範	二〇〇
地球の大形態成因に關する楔狀説に就て(下)……………	理學士	帷子 二郎	二二四
肥前大串の砂金……………	理學士	筑紫 越郎	三三二
佛蘭西に於ける地學研究室瞥見(二)……………	文學士	寺田 貞次	三三九

摘 錄

- 小林儀一郎―北樺太油田地質概報
- 小林貞一―長門の中生層の層序
- 横山又次郎―土佐の第三紀貝類
- 全 三河渥美半島の貝化石
- 全 秋田油田の化石軟体動物
- 全 南遠江の第三紀軟体動物
- 山本一清―淺間火山近傍に於ける重力偏差觀測の初報
- 全 水澤万國緯度觀測所附近の重力偏差觀測
- 野滿隆治及岡木元次郎―日本沿岸に於ける平均海水面年變化の原因

○地理教材研究第九輯

雜 報

- 滿洲にある朝鮮人の數○蒲の穂○山東の鷄卵○蘭領東印度の石油○印度人の綿布消費力○ヤクーツク共和國事情○佛國の石炭業○ロープ運河開通○リオデジャネイロとサンボロ
- 南阿聯邦のプーアホワイト○大正十四年十月一日國勢調査の結果による日本内地の人口(五)(愛知縣、静岡縣、山梨縣、滋賀縣、岐阜縣、長野縣)○白頭山頂上の岩石○地球だより

質 疑 應 答

- 鑛泉の種類と其分布○地球の年齢に關する諸假説○地中海氣候に就て冬季雨多き理由

新 著 紹 介

地球學團新入會員 (自大正十五年十二月二日
至大正十五年十二月廿三日)

山梨縣西八代郡富里村
愛知縣碧海郡知立町西中
和歌山縣田邊中學校
愛知縣丹羽郡岩倉町大字八劍
福井縣丹生郡織田村織田小學校
大阪市東區清水谷西町三〇四
愛媛縣立大洲中學校
千葉市中學校
新潟縣刈羽郡二田村白石西山鐵業所
滋賀縣船橋學校
德島縣那賀郡今津村
山口縣德山町字河原
大阪市西區南堀江下通り高臺小學校
和歌山縣立伊都中學校
三重縣津市東町
岐阜縣女子師範學校
大阪市天王寺區上本町七丁目六七
德島縣師範學校訓導
山口縣師範學校訓導
香川縣綾歌郡山田村
大分縣大分中學校
兵庫縣飾磨郡御園野村國分寺
鳥取縣鳥取第二中學校

深澤美雄
水野千蔭
尾崎昌興
井上武也
鳥居彦一
竹井盈藏
大野東雲
利根川孫市
大澤勝太郎
上原正男
吉見鶴三郎
藤谷義彦
田中三之助
中島信太郎
松田猛
羽倉儀三郎
大谷洋
濱川實藏
船本恒一
田川玉好
河野行雄
黑坂一勇
米山秀一郎

地球 前號 (第七卷第二號) 要目

圖版 第二版 隱岐島後地質圖

日本群嶋の地貌に及ぼす地内力の結果……………

重力偏差の分布から見た鹿兒嶋灣周圍の地下構造(一)…………… 理學博士 小川 琢 治

隱岐島後の火山岩に就て(三)…………… 理學博士 松 山 基 範

日田盆地の考察…………… 理學士 春 本 篤 夫

遠州濱名湖の歴史地理學的考察佐々木清治地球の大形態成因に關する楔狀說に就て(上)…………… 理學士 帷 子 二 郎

佛蘭西に於ける地學研究室瞥見(一)…………… 文學士 寺 田 貞 次

石油地質學概要(八)…………… 理學士 大 村 一 藏

講 話

摘 錄

新著紹介

雜 報

質疑應答(文檢解答)

地球學團規約

- 第一條 本學團を地球學團といふ。
- 第二條 本學團は地球に關する學術的研究を進め兼て同好の士の結合を目的とする。
- 第三條 事務所を京都市白川通分町京都帝國大學地質學教室内に置く。又會員が多い地方には支部を置く事がある。
- 第四條 本學團の事業は次の如くである。
 一 雜誌並に圖書の刊行
 二 講演並に講習會の開催
- 第五條 本學團員は地球學の指導として一年分六圓又は半年分三圓を發行所へ前納すること。
- 第六條 本學團員になりたい人は、住所職業氏名を申込み、同時に地球學團費半年分以上を、發行所へ送金する事。
- 第七條 學團を脱退しやうとする者は、其の旨を學團に通知すること。

註文規定

- ◎購讀者の註文及び廣告に關する件は博多成象堂へ御申込下さい。
- ◎本誌の御註文代金郵税共すべて前金にて御送り下され度候。
- ◎郵券代用にての御註文は一割増に願上候。
- ◎振替貯金にての御送金は(振替大阪七參參番、東京五貳六〇七番)博多成象堂に願上候。
- ◎前金切れの場合(振替)に「前金切」の印章捺捺致すべきに付直に御拂込下され度候。
- ◎特に請求書及領收書等を要する場合は郵券參錢御送付下され度候。

一册	定價金五十錢	郵税金貳錢
六册(前金)	定價金參圓	郵税不申受
十二册(前金)	定價金六圓	郵税不申受

廣告料 一頁 金五十圓

昭和二年二月廿五日印刷納本
昭和二年三月一日發行

不許複製
禁轉載

(第七卷)

編輯者 京都帝國大學 地球學團

右代表者 藤田元春

發行者 博多久吉

印刷者 井下精一郎

印刷所 井下書籍印刷所

大阪市南區大寶寺町西之丁貳拾貳番地

發行所

博多成象堂

電話大阪特南壹壹七七番

發賣所

博多成象堂

東京市神田區錦町三丁目拾貳番地
大阪市南區大寶寺町西之丁貳拾貳番地

振替(東京五貳六〇七番 大阪七參參番)

所 別 賣

(東京) 東隆堂 東海堂 大東館
 (大阪) 北隆館 上田屋
 (京都) 盛文館 川瀨進堂
 (神戶) 寶文館 川瀨盛社
 (名古屋) 共盛社 マガジン 川瀨書店 星野書店

CHIKYŪ - THE GLOBE



Vol. VII. No. 3.

March, 1927.

New Interpretation of the Arcuate Tectonic Lines in East Asia.

By T. Ogawa, *R. H.*.....177

On the Submarine Origin of *Kurokō* Deposits.

By R. Ōhashi195

Climate and Mankind.

By N. Mimura.....203

Professor Lacroix's Lecture on the Eruption of Mt. Martinique.

By M. Matsuyama, *R. H.*210

R. T. Chamberlin: The Wedge Theory of Diastrophism. (2)

By J. Katabira, *R. S.*.....214

Placer-Gold at Ōkushi, Hizen Province.

By K. Kinoshita, *R. S.* 221

Visits to the Geographical Institutes in France (2)

By T. Terada, *B. S.*229

Abstracts—New Books—Geographical Notes—Inquiries.

Chikyū Gakudan

Kyōto Imperial University